

# 支援部便り

外部用  
令和6年 1月 23日  
宮城県立金成支援学校  
支援部

## 居住地校学習アンケート

御協力ありがとうございました



県の「居住地校学習推進事業」を受け実施いたしました居住地校学習では、様々な御配慮をいただき誠にありがとうございました。本校では「自分が生活する地域の同年代の友達と一緒に活動することに慣れ、地域生活の基盤を作る」というねらいの基、居住地校学習に取り組んでできました。本年度は、直接訪問しての交流が実施でき、それにより居住地の同年代の友達と関わる経験の少ない本校児童生徒たちが、居住地校の皆さんと共に学ぶことのできる貴重な機会を得ることができましたことに、心より感謝申し上げます。

本年度の居住地校学習アンケート結果について、まとめましたのでお知らせします。来年度、この貴重な御意見を役立てていきたいと思っております。

名称：「居住地校学習アンケート」 回収率：100%

対象：令和5年度実施校担当者（小学校5校6学級、中学校1校1学級、本校小・中学部）

○居住地校学習を実施した本校の児童生徒数は・・・  
小学部 7/17人（41%） 中学部 1/4人（25%）

○居住地校学習を実施した集団は・・・  
小学部・・・通常の学級、特別支援学級 中学部・・・特別支援学級



### Q1 本年度、どのような活動をしましたか？

○小学校：（受入校）特別活動、生活単元学習、自立活動、図工、体育  
（本校）生活単元学習、遊びの指導、特別活動

【活動例】自己紹介、作品制作（夏の貼り絵、セロハンで作ろう）、七夕会、折り紙、シャボン玉サイコロ手遊び、ゲーム（ぴったんこ、七夕バスケット、宝探し、あ！、4つ角、何だろう）、だるまさんが転んだ、追い駆けっこ、サーキット、リレー、ボール回し、走ろう歩こう、ダンス、ラジオ体操、ボウリング、リトミック、パラバルーン

○中学校：（受入校）学級活動（本校）生活単元学習

【活動例】自己紹介、○×クイズ、玉入れ



### Q2 児童・生徒の様子はいかがでしたか？

○受入校

- ・他学年、他校の児童と交流することで、いろいろな子がいることを知ったようだ。どうしたら相手が喜ぶか考える子もいた。（小）
- ・N君との再会を楽しみにしていた。当日もウキウキして到着を待ち、一緒に楽しむことができた。次はいつ？と聞いていた。（小）
- ・活動日を楽しみにしていた。実施後も活動を思い出して、また会いたいと話していた。（小）
- ・本校の子どもたちにとっても楽しく思い出となる活動となった。またTさん、R君に優しく接しようとしている姿を見ることができ、担任としてうれしく思った。よい経験の機会をいただき、ありがとうございました。（小）
- ・子どもたちは休み時間も遊べると思っていたようで、それほど楽しかったようだ。Tさん、R君も笑顔でよかった。（小）
- ・迎える時にどうしていいかわからない様子でおろおろしていたが、関わるうちに自分から声を掛け、手を差し伸べて活動し始めたように見えた。（小）

- ・とてもたのしそうに活動していた。事前準備で担当を決め、会の進行や説明等の練習も一生懸命取り組み、当日もその成果を発揮しようとし頑張っていた。Kさんとも顔見知りで、当日会えたことがうれしかったと話していた。(中)

○本校

- ・リラックスして楽しく取り組めた。昨年度も経験していて、自然な形で参加することができた。
- ・時間の経過とともに慣れてきて楽しく活動することができた。(小)
- ・はじめは緊張していたのか、少し落ち着かない様子も見られたが、志波姫小学校の児童たちがとても明るく温かく迎えてくれたので楽しく活動することができた。(小)
- ・2回目では、コミュニケーションを取ったり上手に自己紹介したりなど成長も見られた。(小)
- ・終始活動に集中し、相手校の児童からの働きかけにもよく反応していた。後日送られてきたお手紙を何度も見直していることから、楽しめたことがうかがわれる。(小)
- ・笑顔を見せて相手校の児童と関わりをもちながら活動した。(小)
- ・若柳小の児童と進んで関わりをもとうとしていた。楽しく活動に参加していた。(小)
- ・小学校で一緒だった友達に会えることを楽しみにしている様子だった。中止になりとても残念がっていた。(中)

Q3 実施して感じたことや今後の課題、配慮が必要なことは、何ですか？

○受入校

- ・できるだけ多く関わられるような内容と時間を検討していきたい。(小)
- ・とてもなごやかにたのしくできた。少しずつ交流の範囲を広げる方向で考えていきたい。(小)
- ・交流をより充実させるために活動を工夫していくとよいと思った。(小)
- ・リモートよりも実際に対面して一緒に活動した方がよいと改めて思った。(中)



○本校

- ・相手校の児童にとってのメリットは何かと思うこともあった。お互いに負担がないように実施していくのが良いと思う。回数は1、2回がベストと思う。(小)
- ・相手校の時間割に合わせて活動する場合もあるが、本校生徒の通常の学習時間や給食の時間を考慮して当日の活動時間の設定をしていきたい。(中)

【本校保護者の感想など】

- ・同地区の子どもたちと関わることができてとてもよい経験になった。(小)
- ・活動は子どもだけでなく自分も楽しかった。(小)
- ・楽しそうに活動する子どもを見て大変満足した。(小)
- ・制作、運動に子どもと一緒に参加した。子どもと共に居住地校学習を楽しむことができた。(小)
- ・当日急に欠席する可能性があり、登校するまで不安に思った。無事に活動できてよかった。(小)
- ・1回目参観して内容や関わりについては好評だった。ただ本人が保護者から離れられなくなってしまったので2回目は参観しないことにした。(中)



本年度は12月初旬までに居住地校学習を終えることができました。小学部、中学部共に直接交流を行いました。小学部1年生は初めて訪問する学校や友達に緊張はしても、次第に楽しく交流することができました。継続して交流している児童生徒も、久しぶりに会う友達にわくわくしながら訪問して、いろいろな活動を笑顔で行うことができました。

本校の子どもたちは将来、地域で生活します。この居住地校学習をきっかけとして同年代の子どもたちやその子どもたちを取り巻く大人たちとつながり、地域に根ざした基盤作りをさせていただくことが子供たちの将来につながっていくものと思われまますので、今後とも御協力よろしくお願いたします。